2016 年 8 月 20 日発行

「赤レンガをいかす会」

赤レンガ通信

会の運営は、皆さんのカンパで支えられています。ご支援をよろしくお願いします。　No.10

〒272-0824　千葉県市川市菅野 1-1-23（シェア・スペース“にわにわ”内）
TEL&FAX 047-369-7522
Eメール　akarenga_2010@yahoo.co.jp　HP　http://ichibun.net/akarenga.

「保存」へ、最初の一歩を踏み出した！“市川国府台の赤レンガ”

赤レンガをいかす会代表　吉原廣

残暑お見舞い申し上げます。皆様、お変わりないでしょうか。

さて、本年 1 月の市川市大久保博市長の定例記者会見が話題を呼びました。「市川市行徳にある野鳥観察舎の存続と国府台の赤レンガ建築物の保存を、所有者である千葉県に求めていく」というものです。突然の表明で、私たちも驚きました。

両方とも千葉県が所有するもので、観察舎は廃止方針を覆すことになり、赤レンガは放置されたままの現状を克服することにつながります。その後、市川市議会で「赤レンガ保存を求める意見書」も採択され、やっと新たな動きが見え始めました。

とはいえ、その後の県との協議がどうなっているかなど、行政からの報告はありません。この後の具体的な展望が語られるようになるまでにはまだかなりの時間を要することでしょうし、市民と行政との協働的話し合いもそう簡単ではないようですが、市民的楽天主義のもと、決して諦めることなく活動していきたいと思います。

昨年、私たちは赤レンガ・ガイド冊子「市川国府台の赤レンガ建築物～その保存と活用を求めて～」を発行しました。赤レンガの建築と歴史と周囲環境を解説するＡ5 班 120 ページのカラー印刷で、おかげさまで大評判となり、行政や関係者の多くの皆さんにも読んでいただきました。「いい時期に、いい発信ができた」と会員一同「いい気分」でいます。こういう活動が大切ですね。

さて、本年は 9 月 4 日（日）からイベントが続きます。下記事業一覧とともに、詳細な特集記事を掲載しましたので、ぜひご参加くださいますようお願い申し上げます。

２０１６年の活動

1	公演協力：第 8 回いちかわ市民ミュージカル　【夏の光 2016～空に消えた馬へ～】	9 月 4 日（日）11 時と 15 時の 2 回公演
2	赤レンガ見学会	10 月 29 日（土）13:00～15:00（少雨決行）
3	若者のための「赤レンガ宣伝ワークショップ」	10 月 29 日（土）13:00～17:00
4	シンポジウム	計画中

ご報告　昨年度市川市市民税 1%市民活動支援金は 60,346 円でした。冊子発行資金に使わせていただ

赤レンガのすべてがわかるガイドブック！

放置と崩壊の危機にある市川国府台の赤レンガ建築物～その保存と活用を求めて～

まだ残部あります。購入ご希望者はご連絡ください（頒価 500 円）

TEL090-3432-2682（吉原携帯）　Eメール　yoshy2016@jcom.zaq.ne.jp

・・・・三世代市民の文化交流と地域のつながりを求めて・・・・

いちかわ市民ミュージカル第 8 回公演

市川国府台の赤レンガ建築物の保存と再生を願うミュージカルの第 2 弾！

夏の光 2016～空に消えた馬へ～

作・作詞・演出:吉原廣　　音楽:石川洋光　　振付:安西真幸

わが町市川に、とんでもない歴史が埋まっていた！

2 年に一度公演される「いちかわ市民ミュージカル」、前回の第 7 回公演は「月の雫～市川イーハトーボ物語～」。市川国府台の森にひっそりとたたずむ赤レンガの建物。満月の夜、そこから静かなピアノの調べが奏でられ、その音色は市川の空をおおって、心寂しい人たちを誘い込む…という幕開きとともに、赤レンガに眠る怪人を通して陸軍の武器庫であった赤レンガの戦前史を描くものでした。

国府台の赤レンガをもっともっと多くの方々に知っていただくために、今回は旧千葉県血清研究所（血清研）の設立につながる戦前の出来事を描いた、第 3 回公演（2006 年度）の「夏の光～空に消えた馬へ～」が改作・再演されることになりました。

昭和 20 年夏、アメリカとの本土決戦を覚悟した軍部は、「10 万人分のガス壊疽菌ワクチン製造」を中山競馬場軍医学校（血清研の前身）に命令し、500 頭の抗体馬の生き血を「全採血」する作業に、近郊の勤労動員中学生が従事させられたという事実をミュージカル化します。
赤レンガをいかす会も全面協力しています。皆さまもぜひご高覧いただきますようご案内申し上げます。

あ　ら　す　じ

市川国府台の旧千葉県血清研究所跡地に残る赤レンガ建築が保存に向けて動き出した。
かつて、そこで働いていた老人・松丸幸次郎に鮮明な記憶がよみがえる…！
昭和 20 年夏、戦争に勝つための軍馬として中山競馬場に集められた 500 頭の馬たち。
ある日、馬の世話をする勤労動員中学生たちに、とんでもない命令がくだった！
10 万人分のガス壊疽ワクチンを製造するために、生きたままの馬から「全量採血」せよというのだ！
戦後の血清研につながる歴史的事実のミュージカル化！

日　時:2016 年 9 月 4 日(日)　開演 11 時と 15 時の 2 回公演(上演時間 2 時間 15 分)
会　場:市川市文化会館大ホール
入場料:前売り　指定S席 2500 円　A席 2000 円　自由席 1000 円　当日　各 500 円増し
～チケットのお求め～
いちかわ市民ミュージカル実行委員会　047-369-7522

平成 28 年度市川市市民活動団体事業補助金対象事業

2016 年度赤レンガの保存を願う活動

赤レンガ見学会 2016

10 月 29 日（土）　13:00～15:00

参加費無料　申し込み不要　少雨決行

まるで彦星と織姫のように、年に一度、赤レンガと出会えるチャンスです。
ぜひご参加ください！

今回のテーマは「レンガの秘密を解剖する！」

建築と歴史の専門家が解説します。

懐中電灯をご用意ください。

中学・高校生のための 赤レンガ宣伝ワークショップ

日　　時：10 月 29 日（土）　13:00～17:00

場　　所：赤レンガと和洋女子大学

『あなたが赤レンガ広報員として採用されたとしたら！
赤レンガの魅力を市民にどのように伝えますか？』

参 加 費：無料（和洋女子大の学食ランチ付き）

対　　象：市川市内の中学生・高校生　50 名（応募者多数の場合は抽選）

持 ち 物：筆記用具、手持ちの撮影器具【カメラ・スマホ等】、
写生材料など…

申し込み締切：9 月末日

相談窓口：　090-3432-2682（代表携帯）（事前に相談ください）

★交通アクセス★
市川駅　～　松戸駅行き　京成バス～
和洋女子大学前下車　・　徒歩3分

レンガ四方山話

建築家　髙木彬夫

レンガが建築材料と建築工法として初めて日本に登場したのは江戸時代末期（安政 4 年）のことである。江戸幕府の注文を受けて造船した咸臨丸を運んできたオランダ船団の要員ハルデスが飽の浦の地に長崎製鉄所建設のための資材として瓦職に焼かせた。ハルデス煉瓦と呼ばれるもので、当時はまだ、高温焼成技術が未熟で厚さを薄くした製品しか焼けなかった。形状が似ているところから「こんにゃく煉瓦」とも呼ばれた。

長崎市に残る小菅修船場の機械小屋（1868 明治元）が日本初の現存するレンガ建築であるが、ハルデス煉瓦が使用されている。

その後、建築物にレンガを用いる例は徐々に増えた。明治初期には大阪造幣局、富岡製糸場、東京銀座煉瓦街（現存せず）、などが有名であるが建築の分野では多くはない。この時期には港湾施設、工場、灯台などの土木施設が主に建設された。千葉県では、野島崎灯台、犬吠埼灯台がそれである。レンガ材の供給は各地各様であり、初期には建設地の近くで製造されたケースが多い。原料の土と燃料があればどこでも製造できた便利な建築資材だった。

日本初のレンガ工場は 1870（M3）大阪府堺市に設立された。銀座煉瓦街の建設の際には大量の煉瓦を必要としたため、東京の小菅集治監に日本初のホフマン窯のレンガ工場が築かれた。

日本の近代産業としては明治 20 年代に入り汎用建築資材としての将来性に注目したレンガ産業が相次いで興る。日本煉瓦製造（深谷・上敷免）、下野煉化（古河）、大阪窯業（草加）などが供給を担った。また東京荒川に沿って中小の製造所が多数出来た。

レンガには刻印が打たれているものが多い。刻印から製造所、製造の時期などが分かる。ただし刻印はレンガの広い面に打たれているので、積み上げてあるレンガでは表に現れることが少ないが窓周りや軒裏などにみられる場合がある。

レンガの寸法（長辺 225、短辺 100、厚さ 60）は洋の東西を問わずほとんど変わらない。左手にレンガを持ち右手でモルタルを塗り付け積む、単純な作業の繰り返しに適したサイズ、重量が今の形に定着したのだろう。

レンガの積み方は 1 枚半（約35㌢）、2 枚（約45㌢）、2 枚半（約55㌢）積みと呼び壁厚を表す。表面に現れる目地の形の違いで大別してイギリス積み、フランス積みの 2 種ある。

目地の役割は重要で、水平目地は1段積むごとにレンガ寸法のばらつきを補正しながら接着をする。垂直目地は縦に目地が通らないことが原則である。役物（特殊な形状）の数を増やさないことも重要である。開口部の上部にはまぐさ、アーチ、隠しアーチ、水平アーチなどを使い上部の荷重を分散する。これらのことを守れば誰にでも積むことができるのがレンガ造の面白いところで、手作り感のあるものができる。

堅牢で、耐火性、耐湿性に優れた性能のあるレンガ建築は港湾施設、倉庫、工場などに適しており多用された。これらの建物は開口部が小さくレンガ構造にとって適している。しかし関東大震災（1923 大正 12 年）で多くの建築が崩壊しまた火災のために東京は壊滅的な被害を受けた。レンガ造の建物も多数崩壊した。多くの利点を有したレンガ造も耐震性では劣っており、鋼材で補強改良したレンガ造も造られたが、レンガ建築の全盛は明治 30 年代から大正 15 年までの 30 年間で、関東大震災以降は鉄筋コンクリート造に席を譲ることになる。しかしレンガの持つ美しさを活かした建物はその後も造られた。

＊国府台赤レンガは明治 20 年頃の建物で旧く、関東大震災にも耐えた貴重な例である。
＊国府台赤レンガには、窓台、軒裏のレンガに㊥の刻印があることが分かる。小菅集治監製造説が有力であるが確証は得られていない。

今回の見学会はレンガに焦点を絞ります。ぜひ懐中時計などをご持参ください。（編集部）